

神底寶御寶主山河之水沐本紀作沫御魂靜挂甘美御神底寶御寶主也萎此云毛是非似小兒之言若有

託言乎於是皇太子奏于天皇則勅之使祭

〔日本書紀雄略〕六年三月丁亥天皇欲使后妃親桑以勸蠶事爰命螺贏註聚國內蠶於是螺贏誤聚

嬰兒奉獻天皇天皇大咲賜嬰兒於螺贏曰汝宜自養螺贏即養嬰兒於宮墻下仍賜姓爲少子部連

〔日本書紀宣化〕四年十一月丙寅葬天皇于大倭國身狹桃花鳥坂上陵以皇后橘皇女及其孺子合葬

于是陵

〔萬葉集十卷〕有緣井雜歌昔有老翁曰竹取翁也中

緣子之若子蚊見庭垂乳爲母所懷搓襠平生蚊見庭結經方衣水津裏丹縫服頸著之童子蚊見庭結  
幡之袂著衣服我矣下

〔大和物語下〕むかしうどねりなりける人おほみわのみてぐら使に大和の國にくだりけり井手

といふわたりにきよげなる人の家より女のわらはべ出きて此いく人を見るきたなげなき女

いとおかしげなる子をいできてかどのもとなたり此ちごのかほのいとおかしげなりけれ

ばめをとめてその子こちゐてこといひければこの女よりきたりちかくて見るにいとおか

しげなりければゆめことをとこま給ふな我にあひ給へおほきになり給はんほどにまいりこ

んといひてこれをかたみにし給へとて帯をときてとらせけりさてこの子のまたりけるおび

をときとりてもたりけるふみにひきゆひてもたせていぬこのことも六七ばかりに有けりこ

の男いろごのみなりける人なればいふになん有ける

〔枕草子二〕こゝろときめきするもの

ちごあそはする所のまへわたりたる

〔枕草子三〕あてなるもの